

～初級から楽しく描こう～
第13期 楽しい水彩・パステル

【6月の活動報告】

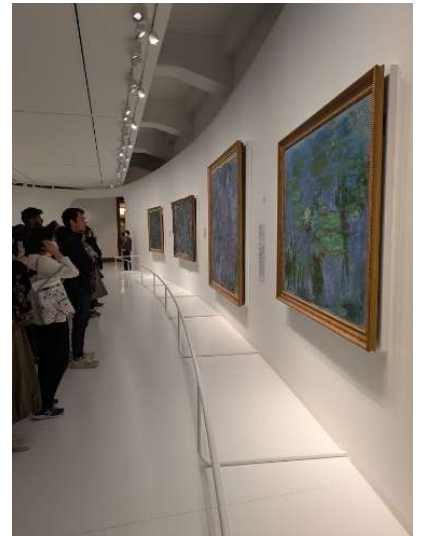
6月3日（火）校外学習

○今年度最初の校外学習は、20名が参加して、「京都市京セラ美術館」で開かれている「モネ 睡蓮のとき」を鑑賞しました。

印象派を代表する画家のひとりであるクロード・モネ（1840-1926）が多くの困難の中で描かれた主に晩年の作品である「睡蓮」を中心に巨大なカンヴァスの作品の数々を目にすることが出来ました。

受講生からも「実物の作品を観て筆のタッチに感心した」「同じモチーフで光と影をいろいろな角度から描かれて、すごい作品でした」との感想がありました。

約1時間半の鑑賞後、班ごとに近くのレストランでランチタイムを過ごし、雨模様の京都を後にしました。



6月9日（月）色彩について（色の3属性等）

午前 講義「色の3属性等」について、午後 実技指導

1. 色の3属性

色は①**明度**（色の明るさ）②**彩度**（色の鮮やかさ）③**色相**（赤から赤紫までの12色が基準）の3つの要素を持っている。

2. 色相環

赤から右へ橙、黄から緑…似た色合いの色を並べていくと一回りして丸い環になる これを**色相環**という

(1) **色の三原色**：赤・黄・青が三原色でこれだけは色と色を混ぜても作ること

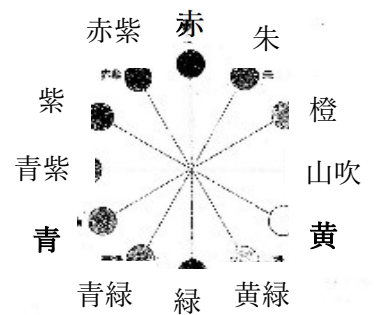
ができない

(2) **補色**：色相環で正反対に向き合った色同士を補色という。ほぼ反対に向き合った色を反対色という。

(3) **同系色**：色相は同じで明度の異なる色のグループ。類似色：隣り合う色を混ぜてできる色。

(4) **暖色と寒色**：この色の変化を利用して距離感を出すのが空気遠近法。

(5) **固有色**：物の持っている本来の色、明暗や距離に影響されない状態での色



12色相環

3. 配色

透明水彩は最初に明るい色を塗り、次第に暗い色を塗り重ねて完成させる手順。

6月23日（月）水彩の基本技法

午前 講義「水彩の基本技法」、午後 実技指導

1. 水彩の基本技法 A

(1) ウォッシュ

①**水張り**：紙が 300 g / m²以下の場合、水を含むと波打ちやすくなるため描く前に紙を水に含ませ、パネルや板に水張りテープで固定して乾燥させることで紙を平らに保つための技法

②ウオッシュ

- ・太い筆に絵の具をたっぷり含ませながら広い面を素早く塗る。
- ・色が均質でなければならないことではなく、一つの色を濃くしたり薄くしたり一様でないウオッシュもある。

(2) ウエットオンウエット技法（滲み）

濡れた紙に次の色を重ねると色が滲んで水彩特有の彩色効果を出してくれる。表現に迷い筆が進まなくなった時、滲みをうまく利用するとうまくいくことがある。

(3) ウエットインウエット（ぼかし）

前の絵の具が乾くのを待たずに新しい絵の具を塗っていき、絵の具を交互に流れさせ移行部分をなくし、ぼわっとさせる技法・・・紙をよく湿らせ、すばやく製作すること。

(4) ウエットインドライ技法

頭部を重ね塗りしながら描く方法としてこの技法が標準的
新たな色を加える前に先に施したウオッシュが乾くのを待つ

(5) ドライブラッシュ技法

乾いた筆に水を含ませずに色を塗る・・・油に近くなる



2.水彩の基本技法 B

(1) 「－」 マスキング（色止め）

- ①マスキング液とろうそく②ガッシュ不透明水彩
- ③マスキングテープ ④筆による洗い出し⑤ティッシュによる吸い取り⑥綿棒

(2) 「－」 画面を削る（スグラフィート） ひっかき技法

- ①下地が乾いてから暗い色を重ね塗りし濡れているうちにカッターの刃先か後ろで削る
- ②紙やすり③筆の柄④爪で引っかく⑤吸い取り

(3) 「＋」 散布技法

- ①天然スポンジ②絵の具を飛ばす（筆又は歯ブラシではたく）
- ③点描画法④塩で粒状の色を抜く⑤霧吹き⑥印を使う（紙・消しゴム・天然木・その他）

※講義の後、土方先生が上記の技法を実際に使って分かりやすく手本を示して頂いた。

3. 水彩の基本技法 C

対象物の見方

正面からばかりでなく、上から見た場合とか、角度を変えることによって全体像をつかむ。

以 上